

																						◆水明インターネット句会◆	令和七年八月
20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1				
朝顔を咲かせ無人の駐在所	吾を抱く母はモンペや終戦忌	切り分けて端取る母の西瓜かな	桐一葉小さき嘘つき友見舞ふ	梯梧燃ゆ遠流の島の白灯台	待ち兼ねしそよ風きたる九月かな	路地奥に救急車居る残暑かな	邂逅の握手に滲む珠の汗	ガードマン笑顔でお辞儀油照り	短冊の「世界平和」や星逢ふ夜	猫帰る背中の残暑延ばしをり	葎すだれ揺れる京都の二寧（ねん）坂	烈日の注ぐ八月十五日	葉擦れ音軒端に微か七夕祭	やみくもにダブルクリック炎暑かな	デジタルの数字変はるや稲光	幼少期怖し楽しのかみなり様	蕎麦の花木曾の三日は車中泊	所在無く過ごす一日金亀虫	川涼し避けられぬのは水溜まり				

◆水明インターネット句会◆																				令和七年八月
21	ソーダ水奇跡はきつと泡のなか																			
22	緑蔭に数多ちひさき忘れ物																			
23	あきあかね飛びて飛び交うあきあかね																			
24	白球を追ふ喚声や雲の峰																			
25	ウインナの蛸箸で刺す敗戦日																			
26	アロハシャツの腕を差し出す診察室																			
27	あれこれと枕辺さぐり熱帯夜																			
28	いまひとつこぶしの足らぬ盆甚句																			
29	軽トラの西瓜わんさか傾ぎゆく																			
30	かなかなの道かなかなの続く午後																			
31	夏休み疲労困憊寄る家族																			
32	雑居ビル店名変わり夏燕																			
33	新涼や花屋に水の匂ひせり																			
34	化粧坂休む木の根の虫なけり																			
35	爆心に無言の祈り広島忌																			
36	米はもう半合でよい残暑かな																			
37	実家じまい崩すや考の作り滝																			
38	炎帝や影の旋律タクト振り																			
39	秋寒やコーヒー淹るる昼下がり																			
40	灼ける地に名も知らぬ花の数多																			

◆水明インターネット句会◆																		
令和七年八月																		
41	鶴谷南北のホラー作品夏芝居																	
42	遠くより行商のこゑ秋澄めり																	
43	売り切れのアイスコーヒー販売機																	
44	西瓜割り面でだめなら胴払う																	
45	終戦忌また読み返すはだしのゲン																	
46	磯の香に海は見へねど大花火																	
47	星降る夜ふたり願ふはひとつなり																	
48	指切りの天神平星月夜																	
49	向日葵の元気をもらい行く歯医者																	
50	桐一葉村に二人の同級生																	
51	夕まぐれ路地の残暑にもぐり込む																	
52	湯を動き湯の皺作る極暑かな																	
53	雷鳴に襟元すこし掻き合はす																	
54	パスイードどれがどれやら蚯蚓鳴く																	
55	商店街鼻をくすぐる新茶の香																	
56	端無くも身ほとりに知る秋意かな																	
57	海鳴りは地球の鼓動海猫（ごめ）渡る																	
58	児の口へ溢す優しき冷奴																	
59	噴水へ花の小路や青とんぼ																	
60	少年はあばら光らせ夏の川																	

																				◆水明インターネット句会◆	令和七年八月
80	79	78	77	76	75	74	73	72	71	70	69	68	67	66	65	64	63	62	61		
打ち水の掛け合いはしゃぐ路地の子等	送り火や親子で昇る一つ星	綺羅尽くし必ず終はる大花火	手筒花火揚げ手や火傷見せあへり	一切を任せぬ老母盆用意	ひまわりの切り絵あざやか鬼教	ワンサイズ大きめコーデ牛蛙	日本荒廃ひめおかしよもぎの更地	水に落つ蛍飛ばせし誓子が句碑	ひぐらしやホームに傘の忘れ物	爪立ちて風鈴吊れる子の真顔	米朝のさはり法話に盆の僧	広島に雨をみている終戦日	朝顔かと夕顔の鉢家づとに	棒高跳びのポールのしなり雲の峰	秘湯には我とおまえと赤蜻蛉	夏草の蔓延る留守の庭となり	待ち兼ねし秋秋らしくなかりけり	一人居や朝顔開き飯蒸ける	秋立つや手洗いで干すぬいぐるみ		

◆水明インターネット句会◆																				令和七年八月
100	99	98	97	96	95	94	93	92	91	90	89	88	87	86	85	84	83	82	81	
		茹でたての枝豆甘く濃きみどり	夕立やフェイクニュースは泡と消へ	この平和いつまで続く穴惑ひ	きゅきゅつと茄子の浅漬け美味なりて	汗しとど体を変ふるジム通ひ	蟋蟀や泣き虫の追う姉の背	油照り大氣が肩にのしかかる	紅花や紅に隠れし棘ありて	年毎に値の上がりゆく今年米	墓しまう夫婦や八十の秋彼岸	百日を務めて零る百日紅	秋涼しカレーのバジルに生まれ	木漏れ日に舞ふ影降りぬ黒揚羽	稲刈つてぼつちの案山子かくれなし	秋の虹櫓大樹に足かけて	今朝の秋捲るページの軽きこと	秋立つやカステラ厚く切り分ける	蟪蛄や目を逸らしたる方の負け	